

\*「③態度」の評価については、節全体の評価規準を参考に、各単元中の適した時間に設定されたい。

第1章 歴史のとらえ方・調べ方

●1節 私たちと歴史  
歴史の流れをとらえよう  
3

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○「歴史すごろく」の活動を通して、小学校で学習した歴史上の人物や文化財について振り返り年表に整理する活動や、「人物カード」を作る活動を通して、時代の特色や歴史の移り変わりへの興味・関心を高める。</p> <p>○時代区分の方法や年代の表し方〔西暦・世紀・年号(元号)〕について理解し、年表の見方・表し方を身に付ける。</p>	<p>①知識・技能 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、年代の表し方や時代区分の意味や意義についての基本的な内容を理解している。 ・課題を追究したり解決したりする活動を通して、資料から歴史に関わる情報を読み取ったり、年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 時期や年代、推移、現在の私たちとのつながりなどに着目して、小学校での学習を踏まえて歴史上の人物や文化財、出来事などから適切なものを取り上げ、時代区分との関わりなどについて考察し表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 私たちと歴史の活動を通して、歴史学習に向けて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>①歴史すごろくにチャレンジしよう</p> <p>②「時代の分け方・年表の見方」を振り返ろう I</p>	<p>○小学校での歴史学習を振り返り、どのような人物や建造物を学習したか関心をもつ。</p> <p>○人物や建造物の年代を確かめ、時代・時期を意識して「歴史すごろく」に位置づける。</p>	<p>・小学校の歴史学習を振り返り、人物が活躍したおおまかな年代や、同じころの建造物について理解している。</p> <p>・年代の表し方や時代区分の方法、年表の見方・表し方などの基本的事項を理解している。</p>	<p>年表に人物や建造物をあてはめる活動を通して、時代の特色や歴史の移り変わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>③人物カード作り・チーム作りにチャレンジしよう I</p>	<p>○人物の絵画資料や写真を集め、名前や活躍した時代、業績を調べて「人物カード」にまとめる。</p> <p>○「人物カード」を政治や文化などで活躍した人物に分類する活動を通して、歴史上の人物が様々な働きをしていたことに気づく。</p>	<p>・歴史上の人物が、政治や文化など多様な分野で様々な働きをしていたことを理解している。</p> <p>・人物の絵画資料や写真を集め、名前や活躍した時代、業績を調べて「人物カード」にまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>選んだ人物が、小学校で学習した日本の歴史や自分たちの生活に、どのような関わりがあるのか、また、人物をどのようなグループに分けることができるのかについて考察し、表現している。</p>
<p>・歴史にアプローチ (1)</p>	<p>○小学校の学習で活用した「社会科の見方・考え方」や「学習の進め方」を確かめる。</p> <p>○様々な資料から歴史に関する情報を読み取れることや、年表などにまとめることで情報を整理できることに気づく。</p>	<p>・小学校の学習で活用した「社会科の見方・考え方」や「学習の進め方」を確かめ、中学校の歴史学習の進め方を理解している。</p> <p>・様々な資料から歴史に関する情報を読み取ったり、年表にまとめたりする技能を身に付けている。</p>	<p>小学校の学習で活用した「社会科の見方・考え方」や「学習の進め方」を確かめ、中学校の歴史学習の進め方について多面的・多角的に考察し、表現している。</p>

●2節 身近な地域の歴史  
身近な地域の歴史を調べよう

6

『身近な地域の歴史を調べる学習の方法について学びましょう。(ここでは新潟県新潟市を例に進めます。)』

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○身近な地域の歴史について、情報を収集したり、情報を整理し表現したりするなど、調べ学習の基礎を身に付ける。</p> <p>○諸資料や文化財を活用して、地域の歴史を多面的・多角的にとらえ、表現する。</p>	<p>①知識・技能 課題を追究したり解決したりする活動を通して、自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、具体的な事柄との関わりの中で、地域の歴史について調べたり、収集した情報を年表などにまとめたりするなどの技能を身に付けている。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 課題を追究したり解決したりする活動を通して、比較や関連、時代的な背景や地域的な環境、歴史と私たちとのつながりなどに着目して、地域に残る文化財や諸資料を活用して、身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 自らが生活する地域や受け継がれてきた伝統や文化への関心をもって、身近な地域の歴史について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>①テーマを決めよう 1</p>	<p>○小学校での学習や自分たちの生活体験などもふまえて、班で意見を出し合い、追究するテーマを決める。</p>	<p>○小学校での学習や自分たちの生活体験などもふまえて、班で意見を出し合い、追究するテーマを決める技能を身に付けている。</p>	<p>追究するテーマを決めるために、身近な地域にどのような歴史的な事象がみられるか多面的・多角的に考察し、表現している。</p>
<p>②情報を集めよう ③具体的な調査の課題を決めよう 1</p>	<p>○学校図書館やインターネットを活用し、テーマについて情報を集める。 ○集めた情報を班で持ち寄り、具体的な調査の課題を設定する。</p>	<p>・学校図書館やインターネットを活用し、テーマについて情報を集める技能を身に付けている。 ・集めた情報を班で持ち寄り、具体的な調査の課題を設定する技能を身に付けている。</p>	<p>具体的な調査の課題を設定するために、集めた情報を班で持ち寄り、考察し、表現している。</p>
<p>④野外調査・聞き取り調査を進めよう ⑤整理して考察しよう 2</p>	<p>○調査計画を立てたうえで、見学や体験、聞き取り調査などの調査を進める。 ○調査で得られた資料や情報を整理して、班で立てた仮説を検証する。</p>	<p>・調査計画を立てたうえで、見学や体験、聞き取り調査などの調査を進める技能を身に付けている。 ・調査で得られた資料や情報を整理する技能を身に付けている。</p>	<p>調査で得られた資料や情報を整理して、追究してきた課題について考察し、表現している。</p>
<p>⑥調査の結果をまとめよう 1</p>	<p>○調査・考察した結果を、レポートや歴史新聞などにまとめて発表の準備を進める。</p>	<p>調査・考察した結果を、レポートや歴史新聞にまとめる技能を身に付けている。</p>	<p>調査した結果を考察し、表現している。</p>
<p>⑦発表して、学習を振り返ろう 1</p>	<p>○各班が調べまとめたことを発表し合い、意見交換を行って調査・学習の振り返りを行う。</p>	<p>調べまとめたことを発表したり、意見交換を行ったりする技能を身に付けている。</p>	<p>意見交換を通して、自分たちの調査・学習についてさらに考察し、表現している。</p>

第2章 原始・古代の日本と世界

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～原始・古代の暮らしと社会～	○資料「縄文時代の人々(想像図)」「古墳時代の人々(想像図)」などの読み解きを通して、原始・古代の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 原始・古代の社会の様子について、写真や想像図などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 写真や想像図などの資料から、原始・古代の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 写真や想像図などの資料の読み取りを通して、原始・古代の学習の見通しを立てている。

●1節 人類の出現と文明のおこり  
5

『人類は、どのような歴史をたどって文明を形づくっていったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことや、宗教がおこったことを理解する。 ○それぞれの古代文明には、農耕や牧畜を基盤にして築かれたこと、文字の使用、国家がおこったことなど、共通する特色があることを理解する。	①知識・技能 世界の古代文明や宗教のおこりを基に、考古学の成果をはじめとする諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、世界の各地で文明が築かれたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 古代文明や宗教がおこった場所や環境などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、世界の古代文明の特色や宗教のおこりについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 人類が出現し、やがて世界各地で古代文明がおこったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①グレートジャーニー 1	○人類が進化する過程で、直立二足歩行により道具を作ることができるようになったことや、やがて火や言葉を使用するようになったことを理解する。 ○氷期に大陸から日本列島に人類が移住したこと、人々が道具を発達させ、農耕・牧畜を始めたことで、暮らしや社会がどのように変化したかを考える。	人類が道具の使用・作成、火や言葉の使用を始めたことについて、直立二足歩行や集団行動と関わらせて理解している。	人類が道具を発達させ、農耕・牧畜を始めたことで、暮らしや社会が変化したことについて考察し、表現している。
②エジプトはナイルの賜物 1	○ナイル川やチグリス川・ユーフラテス川、インダス川の流域で、農耕や牧畜が盛んになり、エジプト文明とメソポタミア文明、インダス文明が形づくられていったことに気づく。 ○エジプト文明とメソポタミア文明、インダス文明の特色や、文字・暦・数学などが発達した理由について考える。	エジプト文明とメソポタミア文明、インダス文明の特色について、地図や写真などから読み取り、理解している。	エジプト文明とメソポタミア文明、インダス文明の特色や、文字・暦・数学などが発達した理由を考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
③大帝国の出現と交流 1	○中国文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面からとらえ、世界各地でおこった古代文明と比べて共通する特色を考える。 ○秦が初めて中国を統一したことや、その後中国を支配した漢の時代にはローマ帝国との交通路が開かれたことを理解する。	秦が中国を統一し、その後成立した漢が大帝国を築いたことについて、様々な資料から読み取り、理解している。	中国文明の特色を自然条件・農業・文字・金属器などの面から考え、世界各地でおこった古代文明と比べて共通する特色について考察し、表現している。
④すべての道はローマに通ず 1	○ギリシャ・ローマの文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面からとらえ、世界各地でおこった古代文明を比べて共通することや違いを考える。 ○ギリシャの民主政やローマの共和政について現代の政治制度と比較し、理解する。	ギリシャとローマの政治制度について、現代につながる面と現代とは異なる面の両面から理解している。	ギリシャ・ローマの文明の特色について、自然条件・農業・文字・金属器などの面からとらえ、世界各地でおこった古代文明を比べて共通することや違いを考察し、表現している。
⑤宗教の誕生 1	○古代におこった宗教について、開かれた時期や地域、その後の広がりなど、そのあらましを理解する。 ○現代の世界にも大きな影響を与える仏教・キリスト教・イスラム教がおこった地域について、その宗教が開かれた背景をとらえ、その特色を考える。	宗教のおこりと広がりについて、地図や写真などの資料を活用してまとめ、そのあらましを理解している。	現代の世界にも大きな影響を与える仏教・キリスト教・イスラム教について、その宗教が開かれた背景や特色を考察し、表現している。

●2節 日本の成り立ちと倭の王権  
3

『日本列島では、どのような歴史をたどって国家が形づくられていったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○日本列島で狩猟・採集を営んでいた人々の暮らしについて考える。 ○日本列島での農耕の広まりによる人々の生活の変化に気づき、国家が形成されていく過程のあらましを東アジアとの関わりを通して理解する。	①知識・技能 日本列島における農耕の広まりと生活の変化や当時の人々の信仰、大和政権による統一の様子と東アジアとの関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、東アジアの文明の影響を受けながら日本で国家が形成されていったことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 農耕の広まりや生産技術の発展などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、農耕の広まりによる人々の生活の変化や、大和政権による統一と東アジアとの関わりなどについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 日本列島での人々の生活の変化と、国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑥日本列島のあけぼの 1	○氷期に、大陸から日本列島に移住してきた旧石器時代の人々の暮らしの様子について理解する。 ○縄文時代の人々の暮らしは、旧石器時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。	氷期に、大陸から日本列島に人々が移住してきたことや、それら旧石器時代の人々の暮らしの様子について理解している。	縄文時代の暮らしについて、想像図や写真などから読み取り、旧石器時代との違いを考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑦楽浪の海中に倭人あり I	○弥生時代の人々の暮らしは、縄文時代と比べてどのように変化したのかを、遺跡や出土物から考える。 ○稲作の広まりによって貧富や身分の差が生まれ、クニ(小国)の形成が進んだことを、邪馬台国を例に理解する。	弥生時代の人々の暮らしは、縄文時代と比べてどのように変化したのかを、資料から読み取り、理解している。	稲作の広まりによってムラからクニ(小国)が形成されていった社会的背景や、卑弥呼が中国に使いを送った理由について考察し、表現している。
⑧東アジアの中の大和政権 I	○古墳の規模や分布などから、近畿地方で大王を中心とする大和政権が成立し、各地に勢力を拡大したことを理解する。 ○大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深めた理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考える。	古墳の規模や分布などを資料から読み取り、近畿地方で大王を中心とする大和政権が成立し、各地に勢力を拡大したことを理解している。	大和政権が朝鮮半島の国々との関係を深め、盛んに交流した理由について、渡来人の果たした役割との関わりから考察し、表現している。
●地域の遺跡や古墳を訪ねて (1)	○身近な地域にある遺跡や古墳について様々な方法で調べたり、古代の暮らしを体験したりする活動を通して、地域の歴史に関心をもち、学び方を身に付ける。 ○縄文時代の文化の広がりについて、三内丸山遺跡や上野原遺跡を例に理解を深める。	縄文時代の文化の広がりについて、三内丸山遺跡や上野原遺跡を例に理解している。	身近な地域にある遺跡や古墳について様々な方法で調べたり、古代の暮らしを体験したりする活動を通して、その地域の歴史について多面的・多角的に考察し、表現している。

●3節 大帝国の出現と律令国家の形成  
3

『日本では、どのように律令国家が形づくられていったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○7～8世紀の世界では、東西に大帝国が成立し、シルクロードを通じた国際交流が盛んになったことを理解する。 ○日本では、大陸の文物や制度を積極的に取り入れながら、国家のしくみが整えられたことを理解する。	①知識・技能 律令国家の確立に至るまでの過程、摂関政治などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、東アジアの文物や制度を積極的に取り入れながら国家の仕組みが整えられ、その後、天皇や貴族による政治が展開したことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、東アジアの動きが日本の政治に与えた影響などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 7～8世紀の世界の動きや律令国家が形成されていく過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
④広がる国際交流 I	○東アジアでは、律令制を確立した唐が大帝国に発展し、新羅が朝鮮半島を統一したことをとらえ、進んだ制度や文化が日本に伝えられたことについて考える。 ○イスラム教が広まり、広大なイスラム世界(イスラム帝国)が成立して東西の交易で繁栄したことを理解する。	大帝国に発展した唐や朝鮮半島を統一した新羅から、進んだ制度や文化が日本に伝えられたことに気づき、中央アジアから北アフリカではイスラム教が広まり、広大なイスラム世界(イスラム帝国)が成立して東西の交易で繁栄したことを理解している。	唐が大帝国に発展し、新羅が朝鮮半島を統一した過程や、日本に進んだ制度や文化が伝えられたことについて、多面的・多角的に考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑩あつく三宝を敬え 	○蘇我氏と聖徳太子が、中国や朝鮮の国々にならった新しい政治を始めた理由について考える。 ○飛鳥文化は、大陸の影響を受けた仏教文化であり、渡来人の果たした役割が大きいことを理解する。	飛鳥文化は、大陸の影響を受けた日本初の仏教文化であり、渡来人の果たした役割が大きいことを理解している。	蘇我氏と聖徳太子が、中国や朝鮮の国々にならった新しい政治を始めた理由について考察し、表現している。
⑪律令国家への歩み 	○大化の改新や壬申の乱を経て、大宝律令が制定され、唐にならった律令国家が成立したことを理解する。 ○律令政治のしくみをとらえ、天皇を中心とする中央集権の国家づくりが行われたことに気づく。	大化の改新や壬申の乱を経て、大宝律令が制定され、唐にならった律令国家が成立したことを理解している。	大化の改新や壬申の乱を経て、天皇の地位が高まり、天皇中心の中央集権国家が成立していく過程を考察し、表現している。

●4節 貴族社会の発展  
4

『大陸から伝わった文化や制度は、日本の社会にどのような変化をもたらしたのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展していったことを理解する。 ○国際的な要素をもった文化が栄え、後に文化の国風化が進んだことを理解する。	①知識・技能 仏教の伝来とその影響、仮名文字の成立などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、国際的な要素をもった文化が栄え、それらを基礎としながら文化の国風化が進んだことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 東アジアとの接触や交流と政治や文化の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、都の貴族や地方の農民の暮らし、摂関政治と天平・国風文化の特色について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 天皇や貴族の政治が展開され、古代国家が発展し、国際色豊かな文化から日本独自の文化が生み出されたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑫木簡と計帳は語る 	○都の貴族の豊かな暮らしは、全国から集められる税によって支えられていた一方で、地方の農民にとっては、税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解する。 ○朝廷が墾田永年私財法を出した理由について考え、それにより貴族や豪族がさらに力をつけたことに気づく。	班田収授法や租・調・庸のしくみについて理解し、地方の農民にとって税や労役・兵役が重い負担となっていたことを理解している。	墾田永年私財法が農民の逃亡や土地の荒廃・不足を背景に出されたことを指摘し、貴族や豪族が所有地を広げる要因となったことを考察し、表現している。
⑬シルクロードにつながる道 	○天平文化について、遣唐使らによって伝えられた国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解する。 ○奈良時代に、遣唐使が派遣されたことや、国家により寺院の建設や歴史書の編纂が行われた理由について考える。	天平文化の特色について、遣唐使らによって伝えられた国際色豊かな文化が、都の貴族を中心に栄えたことを理解している。	遣唐使が何度も派遣された理由や、国家により寺院の建設や歴史書の編纂が行われた理由について考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑭望月の欠けたることなしと思えば 1	○桓武天皇は、律令政治の立て直しを図るため、平安京への遷都や東北地方への出兵などを行ったことを理解する。 ○平安時代に藤原氏が繁栄した背景・理由について、律令制や地方政治の変化、摂関政治との関わりから考える。	律令政治の立て直しを図るため、平安京への遷都や東北地方への出兵などが行われたことを理解している。	藤原氏が繁栄した理由を天皇との関係や収入源からとらえ、摂関政治の特色について考察し、表現している。
⑮「以呂波」から「いろは」へ 1	○平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、仮名文字の発達などから理解する。 ○唐に留学した最澄・空海により天台宗・真言宗が新たに開かれたことや、しだいに社会不安が高まるなかで、浄土の教えが広まったことに気づく。	平安時代に文化の国風化が進んだ背景やその特色について、大陸との関係や、仮名文字の発達などから理解している。	天台宗や真言宗が新たに開かれたことや、浄土の教えが広まったこと背景を、社会の動きとの関わりから考察し、表現している。
□中央と地方の誕生 (1)	○木簡の使われ方に関心を広げ、長屋王を例に、平城京での貴族の豊かな暮らしについて理解を深める。 ○朝廷による東北地方への支配拡大の動きから、古代の中央集権国家と蝦夷との関係について考えを深める。	木簡の使われ方に関心を広げ、長屋王を例に、平城京での貴族の豊かな暮らしについて理解している。	朝廷による東北地方への支配拡大の動きから、古代の中央集権国家と蝦夷との関係について考察し、表現している。
□神話にみる古代の人々の信仰 (1)	○『古事記』や『日本書紀』、『風土記』などに神話が記されていることや、それらの神話に由来する伝統的な行事が残されていることを理解する。 ○『古事記』に記された神話を通して、古代の人々の信仰やもの見方について考える。	『古事記』や『日本書紀』、『風土記』などに神話が記されていることや、それらの神話に由来する伝統的な行事が残されていることを理解している。	神話から、古代の人々がどのような信仰やもの見方をしていたか、考察し、表現している。
★学習のまとめと表現 2	○原始・古代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○原始・古代から中世へ時代がどのように変化していったのか、政治の担い手に着目して関心をもつ。	原始・古代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったか、時代の特色を理解している。	原始・古代から中世へ時代がどのように変化していったのか、政治の担い手に着目して考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～中世の暮らしと 社会～	○資料『一遍上人絵伝』『七十一番職人歌合』の読み解きを通して、中世の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 中世の社会の様子について、絵画や絵巻物などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 絵画や絵巻物などの資料から、中世の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 絵画や絵巻物などの資料の読み取りを通して、中世の学習の見通しを立てている。

●1節 武家政治の始まり  
5

『武士は、どのように成長し、政治に進出していったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配がしだいに全国に広まったことを理解する。 ○武士や民衆の活力を背景に生まれた新たな社会や文化の特色について考える。	①知識・技能 鎌倉幕府の成立、鎌倉時代の文化や仏教などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、武士が台頭して主従の結び付きや武力を背景とした武家政権が成立したことなどを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 武士の政治への進出と展開や、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、武家政治の特徴について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 武士が台頭して鎌倉幕府が成立し、その支配が全国に広まるとともに、武士や民衆の活力を背景に生まれた社会や文化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究している。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①武士の登場 1	○武士がおこった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について考える。 ○公領や荘園への影響力を背景に、武士が地方で力を伸ばしたことを理解する。	公領や荘園への影響力を背景に、武士が地方で力を伸ばしたことを、資料から読み取り理解している。	武士がおこった背景や、武士団として勢力を伸ばしていった理由について、朝廷との関連をふまえて考察し、表現している。
②貴族から武士へ 1	○院政の特色について、摂関政治と比較しながら考える。 ○院政のもとでしだいに武士が地位を高め、平氏が武士として初めて政権を握ったことを理解する。	院政のもとでしだいに武士が地位を高め、平氏が武士として初めて政権を握ったことを理解している。	院政の特色について、摂関政治と比較しながら考察し、表現している。
③いざ鎌倉 1	○土地を仲立ちとした将軍と御家人との主従関係のしくみが、武士の暮らしと深く関わっていることを理解する。 ○北条氏の執権政治や、承久の乱で御家人たちが幕府側に結集した理由について理解するとともに、承久の乱の後、幕府の支配は西国まで広がり、御成敗式目も制定されて武家政治が安定していったことを理解する。	土地を仲立ちとした将軍と御家人との主従関係のしくみが、武士の暮らしと深く関わっていることを理解している。	承久の乱で御家人たちが幕府側に結集した理由について、「北条政子の訴え」をもとに考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
④弓馬の道 I	○鎌倉時代の武士や民衆の暮らしの様子について、絵画資料や文字資料から読み取り、平安時代の貴族の暮らしとの比較を通して理解する。 ○農業技術や手工業、商業の発達による人々の生活の向上や社会の変化について考える。	鎌倉時代の武士や民衆の暮らしの様子について、絵画資料や文字資料から読み取り、平安時代の貴族の暮らしとの比較を通して理解している。	農業技術や手工業、商業の発達による人々の生活の向上や社会の変化について考察し、表現している。
⑤祇園精舎の鐘の聲 I	○鎌倉時代の文化の特色について、武士の台頭や民衆の暮らしの変化との関わりから考える。 ○鎌倉時代に新しい仏教が生まれ、宋から伝わった禅宗は武士を中心に広まったことを理解する。	鎌倉時代に新しい仏教が生まれ、幕府の保護を受けた禅宗が武士を中心に広まったことを、資料から読み取り理解している。	鎌倉時代の文化の特色について、武士の台頭や民衆の暮らしの変化など社会的背景と関わらせて考察し、表現している。

●2節 ユーラシアの動きと武家政治の変化  
5

『モンゴル帝国の拡大は、日本の武家政治にどのような影響を与えたのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○13世紀ごろの世界では、ユーラシア大陸に広がるモンゴル帝国(元)が成立し、東西の貿易や文化交流が盛んになったことを理解する。 ○南北朝の争乱や室町幕府の成立について、東アジア世界との密接な関わりとともに理解する。	①知識・技能 元軍の襲来や、南北朝の争乱と室町幕府、日明貿易、琉球の国際的な役割などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、元軍の襲来がユーラシアの変化の中で起こったことや、武家政治の展開とともに、東アジア世界との密接な関わりが見られたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 モンゴル帝国(元)の拡大の様子や、武士の政治への進出と展開、東アジアにおける交流などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、この時代の武家政治の動きとその特徴や、東アジアの動きが国内の政治や社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 武家政治の変化と東アジアの動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑥大陸をまたぐモンゴル帝国 I	○モンゴル帝国が東アジアから東ヨーロッパまで支配を拡大し、帝国を発展させたことを理解する。 ○モンゴル帝国の拡大について、交通路の整備、東西の貿易や文化交流の進展など、その影響を考える。	モンゴル帝国が東アジアから東ヨーロッパまで支配を拡大し、帝国を発展させたことを、地図から読み取り理解している。	モンゴル帝国の拡大について、交通路の整備、東西の貿易や文化交流の進展など、その影響を考察し、表現している。
⑦海から押し寄せる元軍 I	○元軍の襲来(元寇)の経過について、幕府の対応や御家人が果たした役割を、資料を活用して理解する。 ○元軍の襲来(元寇)が幕府政治に及ぼした影響や、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などとの関わりから考える。	元軍の襲来(元寇)の経過について、幕府の対応や御家人が果たした役割を、資料から読み取り理解している。	元軍の襲来(元寇)が幕府政治に及ぼした影響や、鎌倉幕府が滅亡した要因について、幕府と御家人の関係や悪党の出現などとの関わりから考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑧このごろにはやるもの I	○建武の新政が失敗した理由について考えるとともに、南北朝の争乱が続くなかで、地方の守護が力を強めていったことを理解する。 ○室町幕府のしくみをとらえ、幕府は有力な守護大名によって支えられていたことを理解する。	室町幕府のしくみについてとらえ、有力な守護大名らによって幕府が支えられていたことを理解している。	建武の新政が失敗し、南北朝の内乱にいたった経緯やその影響を、後醍醐天皇の政治方針や守護大名の台頭などに着目し、多面的・多角的に考察し、表現している。
⑨行き交う海賊船と貿易船 I	○中国や朝鮮半島で倭寇の活動が活発化するなか、明や朝鮮が成立し、日本と国交を結んで貿易を行ったことを理解する。 ○明との貿易で勘合を用いた理由や、足利義満が「日本国王」を名づけた理由について考える。	日本と明、朝鮮との関係を、貿易品やもたらされた文化、倭寇の活動にふれながら図にまとめ、理解している。	明と勘合貿易を行ったことについて、貿易が日本国内の経済や社会に及ぼした影響を考察し、表現している。
⑩北と南で開かれた交易 I	○琉球やアイヌの人々が活発に交易を行っていたことについて、どのような地域と交易していたか、資料を活用して理解する。 ○琉球やアイヌの人々が独自の文化を発達させた背景について、貿易・交流と関わらせて考える。	琉球王国やアイヌ民族はどのような地域と交易していたかを、「15世紀ごろの琉球王国やアイヌ民族の交易ルート」を活用して調べ、理解している。	琉球やアイヌの人々が独自の文化を発達させた背景について、貿易・交流に着目して考察し、表現している。

●3節 結びつく民衆と下剋上の社会  
3

『民衆の成長は、どのような社会や文化を形づくっていったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○応仁の乱後の社会的な変動や戦国の動乱などから、武家政治の展開について理解する。 ○農業などの諸産業が発達し、畿内を中心とした都市や農村に自治的なしくみが成立したことを理解するとともに、室町文化には禅宗の影響や現在との結びつきがみられることに気づく。	①知識・技能 農業など諸産業の発達、畿内を中心とした都市や農村における自治的な仕組みの成立、武士や民衆などの多様な文化の形成、応仁の乱後の社会的な変動などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 農業や商工業の発達に着目して、事象を相互に関連付けるなどして、民衆の成長が社会に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 民衆の成長を背景とした社会や文化が生まれたことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑪団結する村、にぎわう町 I	○農業生産の向上を背景に、生活の取り決めや他村との交渉など、惣による自治を行う村もみられるようになったことに気づく。 ○産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解する。	農業生産の向上を背景に、惣による自治を行う村もみられるようになったことや、産業や流通が発達するなかで、各地に新たな町が生まれ、町衆による自治を行う都市も現れたことを理解している。	技術面の進歩による、農業や商工業の発達が、惣・町衆など民衆の自治組織や都市の発達などに結びついていくことを、多面的・多角的に考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑫下剋上の世へ 1	○徳政や自治を求める一揆が繰り返して起こった背景には、力を強める民衆の団結があったことを理解する。 ○応仁の乱ののち、各地で戦国大名が割拠し、実力で領国を支配したことについて、下剋上の風潮と関わらせて考える。	この時代に、一揆が繰り返して起こった背景には、民衆が力を強め、団結していたことを理解している。	戦国大名が各地で台頭した背景を、応仁の乱や下剋上の風潮と関連付けて考察し、表現している。
⑬今につながる文化の芽生え 1	○室町文化の特色について、武家と公家の交流、禅宗の影響、民衆への広まりなど、政治的・社会的な背景と関わらせて考える。 ○室町文化のなかには、能や狂言、書院造、茶の湯など、今日まで受け継がれているものが多いことを理解する。	室町文化のなかには、能や狂言、書院造、茶の湯など、今日まで受け継がれているものが多いことに気づき、その特色を理解している。	室町文化の特色について、武家と公家の交流、禅宗の影響、民衆への広まりなど、政治的・社会的な背景との関わりから考察し、表現している。
□働く女性や子どもたち (1)	○女性や子どもが果たした役割を資料から読み取り、中世の社会の様子について考える。 ○絵画資料の活用のしかたを身に付けるとともに、中世の人々の暮らしの様子について理解する。	絵画資料の活用のしかたを身に付け、中世の人々の暮らしの様子を資料から読み取り、理解している。	中世の社会について、絵画資料に描かれた農業や商工業の場面から、女性や子どもが社会に果たした役割を考察し、表現している。
●地域の寺社を訪ねて (1)	○身近な地域にある寺社などについて様々な方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付ける。 ○東アジアとの交流や、それによる文化への影響について、栄西を例に考える。	身近な地域にある寺社などについて様々な方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、学び方を身に付けている。	東アジアとの交流や、それによる文化への影響について、栄西を例に考察し、表現している。
★学習のまとめと表現 2	○中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○中世から近世へ時代がどのように変化していったのか、風景画や貨幣の違いに着目して関心をもつ。	中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色を理解している。	中世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを考察し、表現している。

第4章 近世の日本と世界

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～近世の暮らしと 社会～	○資料『江戸図屏風』の読み解きを通して、近世の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 近世の社会の様子について、屏風絵などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 屏風絵などの資料から、近世の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 屏風絵などの資料の読み取りを通して、近世の学習の見通しを立てている。

●1節 結びつく世界との出会い  
4

『ヨーロッパ人は、なぜアジアや日本を訪れるようになったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○14～16世紀のヨーロッパでは、ルネサンスや宗教改革、アジアへの新航路の開拓などの動きがおこり、ヨーロッパ諸国が貿易や布教などを目的に世界各地へ進出していったことを理解する。 ○ヨーロッパ人が日本に来航した背景や目的を理解し、それが日本の社会に及ぼした影響について考える。	①知識・技能 ヨーロッパ人来航の背景とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、それが日本の社会に及ぼした影響について理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 交易の広がりとその影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、豊かな交易が行われていたアジアにヨーロッパ諸国が進出する中で、世界の交易の空間的な広がりが生み出され、それを背景として日本とヨーロッパ諸国の接触がおこったことや、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 世界の動きと関連付けながら、中世から近世への過渡期にある日本について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<各時間の評価規準>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①教会と『コーラン』の教え 1	○中世のヨーロッパでは、キリスト教・カトリック教会を中心とする文化圏がつけられたことや、イスラム世界では、様々な地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことを理解する。 ○中世の地中海地域で、キリスト教勢力とイスラム勢力との対立が続いた理由について考える。	中世のヨーロッパでは、キリスト教・カトリック教会を中心とする文化圏がつけられたことや、イスラム世界では、様々な地域の文明を取り入れた高度な文化が発達したことを理解している。	中世の地中海地域で、キリスト教勢力とイスラム勢力との対立が続いた理由について指摘している。
②中世からの脱却 1	○中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由について、都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて考える。 ○西アジアや南アジアでは、オスマン帝国やムガル帝国などのイスラム世界が広がり、アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解する。	西アジアや南アジアでは、オスマン帝国やムガル帝国などのイスラム世界が広がり、アジアとヨーロッパをつなぐ貿易で繁栄していたことを理解している。	中世のヨーロッパでルネサンスや宗教改革の動きが起こった背景と理由について、都市の繁栄やカトリック教会の教義などに関わらせて考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
③太陽の沈まない国 I	○アジアとの貿易やキリスト教の布教を目的として、スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めたことを理解する。 ○ヨーロッパ諸国が、アジアやアフリカ、中南アメリカに進出して植民地を築き、その資源や貿易によって勢力を強めていったことに気づく。	アジアとの貿易やキリスト教の布教を目的として、スペインとポルトガルが新航路の開拓を積極的に進めたことを理解している。	ヨーロッパ諸国が、アジアやアフリカ、中南アメリカに進出して植民地を築き、その資源や貿易によって勢力を強めていった過程について説明している。
④戦国の世に現れた南蛮人 I	○鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易について、ヨーロッパ諸国の世界進出と関わらせて理解する。 ○鉄砲やキリスト教が戦国大名を中心に広まった理由や、社会に及ぼした影響について考える。	鉄砲とキリスト教の伝来、南蛮貿易について、ヨーロッパ諸国の世界進出と関わらせて理解している。	鉄砲やキリスト教が戦国大名を中心に広まった理由や、社会に及ぼした影響について考察し、表現している。
□銀で結びつく世界／宣教師が見た日本 (1)	○南蛮貿易が、日本の銀の入手を主要な目的として行われていたことに気づき、銀を通じた日本と世界との結びつきについて考える。 ○来日したヨーロッパ人の日本人観に関心を広げ、天正遣欧使節が派遣された背景について理解を深める。	来日したヨーロッパ人の日本人観に関心を広げ、天正遣欧使節が派遣された背景について理解している。	南蛮貿易が、日本の銀の入手を主要な目的として行われていたことや、銀によって日本と世界とが結びついてきたことを考察し、表現している。

●2節 天下統一への歩み  
3

『全国統一する政権の誕生において、どのような動きがあったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○織田信長・豊臣秀吉による全国の統一事業や、朝鮮への出兵などの対外関係についてとらえ、近世社会の基礎がつけられていったことを理解する。 ○海外から南蛮文化などが取り入れられる一方で、武将や豪商の気風や経済力を背景とした豪壮・華麗な文化が生み出されたことに気づく。	①知識・技能 織田信長・豊臣秀吉による統一事業とその当時の対外関係、武将や豪商などの生活文化の展開などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、近世社会の基礎がつけられたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、中世社会から近世社会への変化の様子や、日本の政治や文化に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 信長・秀吉による統一事業により、近世社会の基礎がつけられていったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<各時間の評価規準>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑤天下統一を目ざして I	○織田信長や豊臣秀吉は、戦国大名や寺院勢力などと戦い、武力による天下統一を進めていったことを理解する。 ○楽市・楽座や関所の廃止など、信長が行った政策のねらいについて考える。	信長や秀吉は、戦国大名や寺院勢力などと戦い、武力による天下統一を進めていったことを理解している。	楽市・楽座や関所の廃止など、信長が行った政策のねらいとその成果について考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑥近世社会への幕開け I	○豊臣秀吉が命じた太閤検地や刀狩、身分統制によって兵農分離が進み、近世社会の基礎がつけられていったことを理解する。 ○秀吉がキリスト教の布教を禁止した理由や、朝鮮への出兵が内外にもたらした影響に気づく。	秀吉が命じた太閤検地や刀狩、身分統制によって兵農分離が進み、近世社会の基礎がつけられていったことを理解している。	秀吉がキリスト教の布教を禁止した理由や、朝鮮への出兵が内外にもたらした影響について、考察し表現している。
⑦城と茶の湯 I	○ヨーロッパや東アジアから新たな文化がもたらされ、生活にも広く取り入れられていったことに気づく。 ○桃山文化の特色や民衆の文化の広がりについて、戦国大名や豪商などの担い手、戦乱の世相との関わりから理解する。	桃山文化の特色や民衆の文化の広がりについて、戦国大名や豪商などの担い手、戦乱の世相との関わりから理解している。	ヨーロッパや東アジアから新たな文化がもたらされ、生活にも広く取り入れられていったことを指摘している。

●3節 幕藩体制の確立と鎖国  
5

『江戸幕府は、どのように全国の統治を進めていったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○江戸幕府の成立と大名統制、鎖国政策と鎖国下の対外関係、身分制度の確立と農村の様子をとらえ、幕府の政治の特色について考える。 ○江戸幕府により、幕府と藩による支配が確立したことを理解する。	①知識・技能 江戸幕府の成立と大名統制、身分制と農村の様子、鎖国などの幕府の対外政策と対外関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、幕府と藩による支配が確立したことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 統一政権の諸政策の目的などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、江戸幕府により全国を支配する仕組みが作られ、都市や農村における生活が変化したことや、安定した社会が構築されたことなどについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 江戸幕府の成立と、幕藩体制による支配の確立について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑧泰平の世の土台づくり I	○江戸幕府の成立の経緯とともに、大名の配置や領地替え、武家諸法度などの政策によって、幕府が全国の大名を統制したことを理解する。 ○幕府が、諸大名に対して軍事的・経済的に優位に立っていたことや、幕藩体制のしくみにより藩の政治の責任を大名に負わせたことに気づく。	地図や資料を活用し、江戸幕府の成立の経緯とともに、大名の配置や領地替え、武家諸法度などの政策によって、幕府が全国の大名を統制したことを理解している。	幕府が、諸大名に対して軍事的・経済的に優位に立っていたことや、幕藩体制のしくみにより藩の政治の責任を大名に負わせたことについて指摘している。
□大名行列と藩の財政 (1)	○資料『会津藩主参勤交代行列図』や藩の財政に関するグラフを読み取り、参勤交代の様子について理解を深める。 ○絵画資料やグラフの読み取りを通して、幕府が参勤交代の制度を設けたねらいと、その結果について考えを深める。	資料『会津藩主参勤交代行列図』や藩の財政に関するグラフを具体的に読み取り、参勤交代のしくみについて理解している。	幕府が参勤交代の制度を設けたねらいと、参勤交代がもたらした結果について、幕府や大名の立場から考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑨東南アジアに広がる日本町 I	○江戸時代の初めには、東南アジアの国々との朱印船貿易が盛んになり、各地に日本町ができたことを理解する。 ○幕府が外交政策を転換し、「鎖国」にいたる過程をとらえるとともに、その理由について、キリシタンの増加、貿易や海外情報の独占との関わりから考える。	江戸時代の初めには、東南アジアの国々との朱印船貿易が盛んに行われ、各地に日本町ができたことや、島原・天草一揆が幕府の外交政策に大きな影響を与えたことを理解している。	朱印船貿易から「鎖国」にいたるできごとを考察し、幕府の外交政策の転換と「鎖国」の理由について、禁教や貿易・海外情報の独占と関わらせて説明できる。
⑩開かれた窓口 I	○「鎖国」下においても、長崎・対馬・薩摩・松前の窓口を通じて、オランダや中国、朝鮮、琉球、蝦夷地などと、交易や交流が行われていたことに気づく。 ○中国・オランダと長崎の関係や、朝鮮と対馬藩の関係から、江戸時代の国際関係について理解する。	中国・オランダと長崎、朝鮮と対馬の関係から、江戸時代の国際関係について理解し、図示する技能を身に付けている。	鎖国下においても、長崎・対馬・薩摩・松前の窓口を通じて、オランダや中国、朝鮮、琉球、蝦夷地などと、交易や交流が行われていたことを指摘し、幕府のねらいを説明することができる。
⑪琉球・蝦夷地を通じた国際関係 I	○琉球王国に対しては薩摩藩が、アイヌの人たちに対しては松前藩が、それぞれ交易を行いながら支配を強めていく過程を理解する。 ○琉球の人たちやアイヌの人たちは、支配下に置かれるなかで、それぞれ中国や日本との交流を深めながら独自の文化を発展させていったことに気づく。	琉球王国に対しては薩摩藩が、蝦夷地のアイヌの人たちに対しては松前藩が、それぞれ交易を行いながら支配を強めていく過程を理解している。	琉球の人たちやアイヌの人たちは、交易を行うなかで、独自の文化を発展させていったことを指摘している。
⑫身分ごとに異なる暮らし I	○幕府や藩が人々を支配するうえで、身分制度が果たした役割や、えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けたことについて考える。 ○村や町に住む人々の暮らしの様子について、幕府や藩による民衆支配との関わりから理解する。	村や町に住む人々の暮らしの様子について、百姓に課せられていた年貢の負担、生活に対する規制を、幕府や藩による民衆支配との関わりから理解している。	幕府や藩が人々を支配するうえで、身分制度が果たした役割や、えた・ひにんの身分とされた人々が差別を受けたことについて考察し、表現している。

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○産業や交通の発達,教育の普及と文化の広がりについてとらえ,町人文化が都市を中心に形成されたことや,各地方の生活文化が生まれたことを理解する。</p> <p>○貨幣経済の広まりや百姓一揆などの農村の変化,江戸幕府の政治改革について理解するとともに,新しい学問・思想の動きに気づく。</p>	<p>①知識・技能 産業や交通の発達,教育の普及と文化の広がりや,社会の変動や欧米諸国の接近,幕府の政治改革,新しい学問・思想の動きなどを基に,諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ,町人文化が都市を中心に形成されたことや,各地方の生活文化が生まれたこと,幕府の政治が次第に行き詰まりをみせたことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 産業の発達と文化の担い手の変化や,社会の変化と幕府の政策の変化などに着目して,事象を相互に関連付けるなどして,都市を中心とした経済が形成されていく中で,日本の文化の空間的な広がりが生み出され,それを背景として各地方の生活文化が生まれたことや,生産技術の向上や交通の整備と町人文化の特徴,貨幣経済が農村に広がる中で経済的な格差が生み出され,それを背景として百姓一揆が起こったことや,社会や経済の変化への対応としての諸改革の展開などについて多面的・多角的に考察し,表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 産業の発達,教育の普及と文化の広がり,農村の変化,江戸幕府の政治改革など,日本の近世社会の発展と変化について,よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>⑬将軍のおひざもと,天下の台所 I</p>	<p>○新田開発や農林水産業が盛んになった背景には,生活の向上を願う人々の工夫や努力があったことに気づく。</p> <p>○商品の流通の拡大や,街道・航路などの交通の発達に伴って,江戸・大阪・京都を中心に各地で都市がにぎわい,有力な商人も現れたことを理解する。</p>	<p>江戸時代に三都をはじめとする都市が繁栄したことを,農業・林業・水産業などの生産増大や,交通・商業の発達と関わらせて理解している。</p>	<p>商品の流通の拡大や,交通網の整備に伴って,商業が発達したことを理解するとともに,資料から,当時の農業の様子や商業の発達について調べまとめている。</p>
<p>●地域の街道や港を訪ねて (1)</p>	<p>○地域を通る街道や港について様々な視点や方法で調べる活動を通して,地域の歴史への関心を広げ,学び方を身に付ける。</p> <p>○江戸時代の交通と各地の結びつきについて,箱根関所や北前船などを例に理解を深める。</p>	<p>江戸時代の交通や,港を通じた各地の結びつきについて,箱根関所や北前船などを例に理解し,学び方を身に付けている。</p>	<p>地域の街道や港について様々な視点や方法で調べる活動を通して,地域の歴史への関心を広げ,身近な地域にある江戸時代の街道や港について,当時の各地との結びつきを考察している。</p>
<p>⑭花開く町人文化 I</p>	<p>○徳川綱吉は儒学を重んじる政治を進めたものの,幕府の財政は悪化し,新井白石が財政の立て直しに取り組んだことを理解する。</p> <p>○都市の発展を背景に,町人を担い手として上方を中心に生まれた元禄文化や,民衆の衣食住の変化や年中行事などについてとらえ,現代の暮らしにもつながる部分が多いことに気づく。</p>	<p>都市の発展を背景に,町人を担い手とする元禄文化が,上方を中心に生まれたことや,その内容について理解している。</p>	<p>近世の民衆に広まった文化のなかには,現代の暮らしにもつながる部分が多いことを指摘している。</p>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑮連判状にまとまる人々 1	○徳川吉宗が政治と財政の立て直しを目標として改革に取り組んだことについて、その具体的な政策を理解する。 ○人々が百姓一揆や打ちこわしを起こすようになった背景・原因には、貨幣経済の広まりによる貧富の差の拡大や、年貢・税の負担増などがあったことに気づく。	徳川吉宗が政治と財政の立て直しを目標として改革に取り組んだことについて、その具体的な政策から理解している。	人々が百姓一揆や打ちこわしを起こすようになった背景について、貨幣経済の広まりによる貧富の差の拡大や、年貢・税の負担増などがあったことを考察し、表現している。
⑯繰り返される政治改革 1	○田沼の政治、寛政の改革、さらに諸藩の改革を比べ、それぞれの改革の目的や内容、結果について理解する。 ○幕府政治の改革が成功せず、繰り返された理由について、幕府の財政難や人々の生活苦、社会の変化などとの関わりから考える。	田沼の政治、寛政の改革を比べ、それぞれの改革の目的や手段、結果について表にまとめ、理解している。	幕府政治の改革が成功せず、繰り返された理由について、幕府の財政難や人々の生活苦、社会の変化などとの関わりから考察し、表現している。
⑰内と外の危機 1	○日本に外国船が接近するようになった背景を振り返り、こうした動きに対して、幕府が北方の調査や海防の強化、異国船打払令を命じたことを理解する。 ○社会の変動のなかで内外に危機が生じたことを理解するとともに、天保の改革はこれらに対応できず、その結果、幕府政治が行き詰まったことに気づく。	日本に外国船が接近するようになった状況を地図や年表から読み取り、その背景や幕府の対策について理解している。	社会の変動のなかで内外に危機が生じたことを理解した上で、天保の改革がこれらに対応できず、幕府政治が行き詰まったことを指摘している。
⑱「読み・書き・そろばん」の習い 1	○幕府や藩が朱子学を奨励した理由や、新たに生まれた国学・蘭学などの学問がもたらした影響について考える。 ○化政文化が江戸の町人を中心に栄えた一方で、各地に寺子屋や藩校が開かれ、地方にも文化が広がったことを理解する。	化政文化が江戸の町人を中心に栄えた一方で、各地に寺子屋や藩校が開かれ、地方にも文化が広がったことや、その特徴・内容・時代背景について理解している。	幕府や藩が朱子学を奨励した理由や、新たに生まれた国学・蘭学などの学問がもたらした影響について考察し表現している。
□リサイクル都市・江戸の町人 (1)	○江戸の町のにぎわいや、町人たちの暮らしの様子について理解する。 ○資源を有効に利用していた人々の知恵について考える。	江戸の町のにぎわいや、町人たちの暮らしの様子について、資料を収集し、的確に読み取り、理解している。	資源を有効に利用していた人々の知恵について、自分たちの暮らしとも比較しながら多面的・多角的に考察し、表現している。
★学習のまとめと表現 2	○近世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○近世から「近代の幕開け」へ時代がどのように変化していったのか、外国との関係に着目して関心をもつ。	近世の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色を理解している。	近世から「近代の幕開け」へ時代がどのように変化していったのか、外国との関係に着目して考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～近代の暮らしと社会～	○資料「明治時代の新橋の様子」「式典の様子」などの読み解きを通して、近代の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 近代の社会の様子について、絵画などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 絵画などの資料から、近代の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 絵画などの資料の読み取りを通して、近代の学習の見通しを立てている。

●1節 近代世界の確立とアジア  
5

『欧米諸国ではどのような変化が起こり、なぜアジアに進出したのだろうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○欧米諸国が、市民革命や産業革命により近代社会を成立させたことを理解する。 ○近代社会を成立させた欧米諸国が、新たな市場や原料の供給地を求めてアジアへ進出したことについて考える。	①知識・技能 欧米諸国における産業革命や市民革命、アジア諸国の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 工業化の進展と政治や社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、欧米諸国の市場や原料供給地を求めたアジアへの進出が、日本の政治や社会に与えた影響などについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 欧米諸国が市民革命や産業革命により近代社会を成立させ、アジアへ進出していったことについて、よりよい社会の実現を視野にそこでみられる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①王は君臨すれども統治せず 1	○16～17世紀のイギリスやフランスでは、絶対王政が成立し、国王による専制政治が行われたことを理解する。 ○イギリスで革命があい次いで起こり、立憲君主政による議会政治が成立したことを理解するとともに、フランスで啓蒙思想の広まりがもたらした影響に気づく。	16～17世紀のイギリスやフランスでは、絶対王政が成立し、国王による専制政治が行われたことを理解している。	イギリスで革命があい次いで起こり、立憲君主政による議会政治が成立したことを説明している。また、フランスで啓蒙思想の広まりがもたらした影響を指摘している。
②代表なくして課税なし 1	○アメリカの独立戦争の経緯や独立宣言から、植民地の人々がイギリス本国に対して求めた権利について考える。 ○フランス革命がそれまでの身分社会を否定し、自由で平等な社会への道を開いたことを理解し、国民議会による人権宣言の意義に気づく。	独立宣言からアメリカの人たちがイギリス本国に対して求めた権利を読み取ったり、人権宣言からフランスの人たちが求めた権利を読み取ったりする技能を身に付けている。	フランス革命がそれまでの身分社会を否定し、自由で平等な社会への道を開き、国民議会による人権宣言の中に自由と平等の権利を明記した意義を指摘している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
③「世界の工場」の光とかげ I	○イギリスでは機械と蒸気機関を利用した工業化が進み、世界で最初に産業革命が起こったことや、その広がりの中なかで資本主義社会が成立したことを理解する。 ○社会主義の実現や参政権の拡大を求める動きの背景には、資本主義社会のもとでの労働問題や社会問題の発生があったことに気づく。	イギリスで機械と蒸気機関を利用した工業化が進み、世界で最初に産業革命が起こったことや、その広がりの中なかで資本主義社会が成立したことを理解している。	社会主義の実現や参政権の拡大を求める動きの背景には、資本主義社会のもとでの労働問題や社会問題の発生があったことを考察し、表現している。
④強大な国家を目指して I	○アメリカが西部の開拓や南北戦争を経て発展していった過程を理解するとともに、西部の開拓によって先住民が土地を追われたことに気づく。 ○社会の改革や国家の統一による近代化によって、欧米諸国が勢力を強め、ロシア、ドイツ、イタリアなどは列強とよばれるようになったことを理解する。	社会の改革や国家の統一による近代化によって、欧米諸国が勢力を強め、列強とよばれるようになったことを理解している。	アメリカが西部の開拓や南北戦争を経て発展していった反面、先住民が土地を追われたことを指摘している。
⑤国をゆるがす綿とアヘン I	○産業革命の進展に伴い、イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国が、工業原料や新たな市場を求めてアジアに進出し、植民地化を進めたことを理解する。 ○インド大反乱や、中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について考えるとともに、こうした抵抗が独立運動や革命の動きにつながっていったことに気づく。	産業革命の進展に伴い、イギリスをはじめとするヨーロッパ諸国が、工業原料や新たな市場を求めてアジアに進出し、植民地化を進めたことを理解している。	インド大反乱や、中国で起こったアヘン戦争・太平天国の運動の背景や要因について考えるとともに、こうした抵抗が独立運動や革命の動きにつながっていったことを考察し、表現している。
□国民国家の成立 (1)	○18～19世紀のヨーロッパで成立した国民国家について、フランスやドイツを例に、どのようにして誕生したかを理解する。 ○近代的な国民国家が成立した後の女性の参政権をめぐる動きなどから、人権思想の発達や国家のしくみについて考える。	ヨーロッパにおける国民国家の成り立ちについて関心を持ち、国民国家へ向かう過程や国民意識との関係を理解している。	近代的な国家のもとでの国民の権利の保障について、資料などを活用して状況を考察し、人権の拡大と深化についての課題を表現している。

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○社会の変動や欧米諸国の接近に対する江戸幕府の対応・政治改革についてとらえ、幕府政治がしだいに行き詰まりをみせたことを理解する。</p> <p>○幕末の開国と、その政治的・社会的な影響について、欧米諸国のアジア進出との関わりから理解する。</p>	<p>①知識・技能 開国とその影響などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、開国によって人々の生活が大きく変化したことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 幕府が対外政策を転換して開国したことなどに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、開国が政治や人々の生活に与えた影響について多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 欧米諸国のアジア進出が日本の開国をもたらしたことや、開国の影響と江戸幕府の滅亡について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。</p>

<各時間の評価規準>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>⑥たった四はいで夜も眠れず I</p>	<p>○幕府が対外政策を転換し、ペリーの来航により開国した経緯を、当時のアジア情勢と関わらせて理解する。</p> <p>○日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について、外国との関係や、幕府と大名との関係から考える。</p>	<p>幕府が対外政策を転換し、ペリーの来航により開国した経緯を、当時のアジア情勢と関わらせて理解している。</p>	<p>日米修好通商条約の締結後に日本が抱えた問題について、外国との関係や、幕府と大名との関係から指摘している。</p>
<p>⑦新たな政権を目ざして I</p>	<p>○開国後、物価の上昇や外交に対する幕府への批判が高まったことや、幕府はこれを弾圧で抑え込もうとしたことを理解する。</p> <p>○攘夷運動の高まりが倒幕へと動き、薩長同盟が結ばれた理由について、長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりから考える。</p>	<p>開国後、物価の上昇や外交に対する幕府への批判が高まったことを資料から読み取り、幕府はこれを弾圧で抑え込もうとしたことを理解している。</p>	<p>攘夷運動の高まりが倒幕へと動き、薩長同盟が結ばれた理由について、長州藩・薩摩藩と欧米の勢力との関わりから考察し、表現している。</p>
<p>⑧御政事売り切れ申し候 I</p>	<p>○社会不安が広がるなかで、民衆による一揆や打ちこわしなどの世直しの動きが高まり、幕府の権威を弱めたことを理解する。</p> <p>○徳川慶喜が大政奉還を行ったねらいと、倒幕勢力が王政復古を宣言して新政府をつくったねらいに気づく。</p>	<p>社会不安が広がるなかで、民衆による一揆や打ちこわしなどの世直しの動きが高まり、幕府の権威を弱めたことを理解している。</p>	<p>徳川慶喜が大政奉還を行ったねらいと、倒幕勢力が王政復古を宣言して新政府をつくったねらいを説明している。</p>
<p>□改革や平等を求めて (1)</p>	<p>○薩長同盟を仲立ちした坂本龍馬に関心を広げ、龍馬が目ざした新しい日本の政治構想や、横井小楠との関係について理解を深める。</p> <p>○幕府政治がゆらぐなか、税の負担や身分の差別を強める藩の動きに対し、人々が改革や平等を求めて起こした一揆について考える。</p>	<p>薩長同盟を仲立ちした坂本龍馬に関心を広げ、龍馬が目ざした新しい日本の政治構想や、横井小楠との関係について理解している。</p>	<p>幕府政治がゆらぐなか、税の負担や身分の差別を強める藩の動きに対し、人々が改革や平等を求めて起こした一揆について指摘している。</p>

●3節 明治維新と立憲国家への歩み  
7

『新政府は、変化する国際関係の中で、どのような国づくりを進めたのだろうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○新政府による政治の改革や、富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の動きについてとらえ、明治維新により近代国家の基礎が整えられて、人々の生活が大きく変化したことを理解する。</p> <p>○自由民権運動や大日本帝国憲法の制定についてとらえ、立憲国家が成立して議会政治が始まったことを理解する。</p>	<p>①知識・技能 富国強兵・殖産興業の政策、文明開化の風潮、自由民権運動、大日本帝国憲法の制定などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、明治維新によって近代国家の基礎が整えられて人々の生活が大きく変化したことや、立憲国家が成立して議会政治が始まったことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 明治政府の諸改革の目的や、議会政治の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、明治政府の諸改革が政治や文化や人々の生活に与えた影響や、現代の政治とのつながりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 明治維新によって近代国家の基礎が整えられ、人々の生活が大きく変化したことや、立憲国家が形成されたことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>⑨万機公論に決すべし I</p>	<p>○五箇条の御誓文に示された政治方針や新政府が進める諸改革の内容から、欧米諸国が近代化やアジアへの進出を進めるなかで、新政府がどのような国家を目指したのか考える。</p> <p>○「四民平等」の理念に基づく身分制度の改革が取り組まれて平等や自由が求められたことや、一方でその後も社会的差別は残されたことを理解する。</p>	<p>新政府が「四民平等」の身分制度改革を進めたことや、一方でその後も残された社会的差別からの解放を目指す動きがあったことを理解している。</p>	<p>版籍奉還・廃藩置県、「四民平等」の理念に基づく身分制度の改革が行われたことやそのねらいについてとらえ、新政府がどのような国家を目指したのか考察し、表現している。</p>
<p>⑩学問は身を立てるの財本 I</p>	<p>○学制・兵制・税制の改革についてとらえ、政府が富国強兵の政策による近代国家の建設を目指したことを理解する。</p> <p>○学制・徴兵令・地租改正に反対する動きが起こった理由について、人々の負担や生活に及ぼした影響から考える。</p>	<p>学制・兵制・税制の改革について江戸時代のあり方と比較してとらえ、政府が富国強兵の政策による近代国家の建設を目指したことを理解している。</p>	<p>学制・徴兵令・地租改正に反対する動きが起こった理由について、人々の負担や生活に及ぼした影響から考察し、表現している。</p>
<p>⑪ザン切り頭をたいたいてみれば I</p>	<p>○殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や、生活・町並みの洋風化の様子を、江戸時代との比較を通して整理し、理解する。</p> <p>○『学問のすゝめ』が多くの読者を得た社会的背景を考えることを通して、明治維新による社会の変化について考える。</p>	<p>殖産興業の政策による産業・交通・通信の近代化や、生活・町並みの洋風化の様子を、絵画資料から読み取り、江戸時代と比べて理解している。</p>	<p>文明開化の風潮のなかで、人間の自由や権利を尊重する思想が欧米諸国からもたらされたことや、人々の生活様式が変化したことについて考察し、表現している。</p>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑫智識を世界に求めて I	○政府が岩倉使節団を派遣した目的やその成果, また外交をめぐる政府内の動きについて理解する。 ○日本が, 清や朝鮮と新たな関係を築こうとするなかで, 東アジアの国際関係に大きな変化をもたらしていくことについて考える。	岩倉使節団の記録や資料から, 政府が岩倉使節団を派遣した目的やその成果を読み取り, またその後の外交をめぐる政府内の動きについて理解している。	二つの条約から, 日本が清や朝鮮と新たな関係を築こうとしたことを読み取り, 東アジアの国際関係が大きく変化していくことについて考察し, 表現している。
⑬形づくられる日本 I	○西洋の近代的な国際関係のなかで, 日本が国境・領土の画定を進めていったことを理解する。 ○近代化を進める政府による同化政策によって, それぞれ伝統的な文化をもっていた琉球やアイヌの人たちの生活や文化が大きな影響を受けたことについて考える。	西洋の近代的な国際関係のなかで, 日本が国境・領土の画定を進めていった過程について, 地図や年表などをもとに理解している。	北海道や沖縄県が成立する過程で, 伝統的な文化をもっていた琉球やアイヌの人たちにどのような政策がとられたかを考察し, 表現している。
⑭民撰議院を開設せよ I	○民主主義の思想の広まりを背景に, 国会開設をめぐり自由民権運動が全国に広まり, 様々な憲法案や政党が作られたことを理解する。 ○立憲政治を実現しようとする自由民権運動が始まったことについて, 政府内では憲法や国会開設をめぐる主張に対立があったことをふまえて考える。	民主主義の思想の広まりを背景に, 国会開設をめぐり自由民権運動が全国に広まり, 様々な憲法案や政党が作られたことを理解している。	立憲政治を実現しようとする自由民権運動が始まったことについて, 政府内では憲法や国会開設をめぐる主張に対立があったことや, それぞれの主張の違いを考察し, 表現している。
⑮憲法の条規により之を行う I	○大日本帝国憲法の制定過程と天皇に権限を集める内容の特色についてとらえ, 日本が天皇を元首とする, 当時アジアで唯一の立憲国家となったことを理解する。 ○大日本帝国憲法のもとで始められた政治の特色を, 議会や選挙, 「家」の制度などからとらえ, 現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考える。	大日本帝国憲法の制定過程と内容の特色について理解し, 天皇が元首として強力な権限をもつことや, 日本が憲法と議会を備える近代国家となったことを理解している。	大日本帝国憲法のもとで始められた政治の特色を, 議会や選挙, 「家」の制度などからとらえ, 現在の政治のしくみとの共通点や違いについて考察し, 表現している。
明治期の面影を訪ねて (1)	○高知県や多摩地域を例に, 各地でおこった自由民権運動の高まりに関心を広げる。 ○幼少期にアメリカに留学した津田梅子の活躍と, 女性の社会的な地位の向上に与えた影響について理解を深める。	幼少期にアメリカに留学した津田梅子の活躍と, 女性の社会的な地位の向上に与えた影響について理解している。	高知県や多摩地域を例に, 各地でおこった自由民権運動の高まりについて考察し, 表現している。
琉球とアイヌの文化を伝えた人たち (1)	○政府の同化政策によって, 琉球やアイヌの人たちの暮らしがどのように変化したかを理解する。 ○琉球やアイヌの人たちの文化の伝承の意義について考えを深める。	明治時代には, 政府の同化政策によって琉球やアイヌの人たちの暮らしが大きく変化したことを理解している。	琉球やアイヌの人たちの文化を伝承することの意義について, 文化の伝承に尽くした人々の努力をふまえて考察し, 表現している。

●4節 激動する東アジアと日清・日露戦争  
5

『日清・日露戦争はなぜ起こり、日本や世界にどのような影響を与えたの  
だろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○条約改正の歩みや日清・日露戦争についてとらえ、日本の国際的地位が向上したことを、大陸との関係と関わらせて理解する。</p> <p>○日清・日露戦争を通じて、日本をとりまく国際関係が変化したことについて考える。</p>	<p>①知識・技能 日清・日露戦争、条約改正などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、日本の国際的な地位が向上したことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 議会政治や外交の展開などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、日本と世界との関係について、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 国際的な視野に立って、日本の国際的な地位が向上したことについて、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑩対等な条約を求めて 	<p>○19世紀の後半に、列強諸国が帝国主義の動きを強め、アジアに勢力を広げながら東アジアにも迫り始めたことを理解する。</p> <p>○条約改正の歩みをとらえるとともに、イギリスとの条約改正に成功した理由について、日本の近代化や東アジア情勢との関わりから考える。</p>	<p>19世紀の後半に、列強諸国が帝国主義の動きを強め、アジアに勢力を広げながら東アジアにも迫り始めたことを理解している。</p>	<p>条約改正の歩みをとらえるとともに、イギリスとの条約改正に成功した理由について、日本の近代化や東アジア情勢との関わりから説明している。</p>
⑪朝鮮をめぐる戦い 	<p>○朝鮮をめぐる勢力争いが清との対立を生み、日清戦争を引き起こす要因となったことに気づく。</p> <p>○日清戦争と三国干渉をきっかけに、国内では、ロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化がみられたことや、政党政治の基礎が築かれたことを理解する。</p>	<p>日清戦争と三国干渉をきっかけに、国内では、ロシアや中国・朝鮮に対する意識の変化がみられたことや、政党政治の基礎が築かれたことを理解している。</p>	<p>朝鮮をめぐる勢力争いが清との対立を生み、日清戦争を引き起こす要因となったことを指摘している。</p>
⑫「眠れる獅子」に迫る列強 	<p>○日清戦争後、欧米列強が清を分割・侵略していったことや、それに抵抗する中国民衆の動きが起こったことを理解する。</p> <p>○日本とイギリスが日英同盟を結んだそれぞれのねらいについて、ロシアの動きや東アジアの情勢との関わりから考える。</p>	<p>日清戦争後、欧米列強が清を分割・侵略していったことや、それに抵抗する中国民衆の動きが起こったことを理解している。</p>	<p>日本とイギリスが日英同盟を結んだそれぞれのねらいについて、ロシアの動きや東アジアの情勢との関わりから考察し、表現している。</p>
⑬列強との戦い 	<p>○韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから、日露戦争が起こったことを理解するとともに、開戦論が強まるなかで非戦論が唱えられた理由について考える。</p> <p>○戦争の推移や講和についてとらえ、戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で、その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解する。</p>	<p>日露戦争の推移や講和についてとらえ、戦争が国民生活に多大な犠牲を強いた一方で、その勝利がアジア諸国などに大きな影響を与えたことを理解している。</p>	<p>韓国や満州をめぐるロシアとの勢力争いから、日露戦争が起こったことを理解するとともに、開戦論が強まるなかで非戦論が唱えられた理由について考察し、表現している。</p>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑳変わりゆく東アジア I	○日露戦争後、日本が韓国を併合し、同化政策などの植民地支配を進めたことにより、朝鮮の人々の主権が奪われていったことに気づく。 ○日本は、満鉄などを通じて満州にも勢力を広げていったことや、中国では、三民主義を唱えた孫文らによって辛亥革命が起こり、中華民国が成立したことを理解する。	日本は、満鉄などを通じて満州にも勢力を広げていったことや、中国では、三民主義を唱えた孫文らによって辛亥革命が起こり、中華民国が成立したことを理解している。	日露戦争後、日本が韓国を併合し、同化政策などの植民地支配を進めたことにより、朝鮮の人々の主権が奪われていったことを指摘している。

●5節 近代の産業と文化の発展  
3

『近代化は、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○日本でも産業革命が進み、近代産業が発展したこと、それによる社会の変化について理解する。 ○学問・教育・科学・芸術の発展を背景に、近代文化が形成されたことを理解する。	①知識・技能 日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問・教育・科学・芸術の発展などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、日本で近代産業が発展し、近代文化が形成されたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 近代化がもたらした文化への影響などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、産業の発展が国民生活や文化に与えた影響について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 日本の産業革命、この時期の国民生活の変化、学問や教育の発展について、よりよい社会の実現を視野に主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
㉑近代産業を支えた系と鉄 I	○日本では、19世紀の末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み、資本主義が確立したことや、20世紀に入って重工業も発達したことを理解する。 ○工業化や交通機関の発達は、都市や農村の生活に大きな変化をもたらし、人々の生活範囲も広がったことに気づく。	日本では、19世紀の末に製糸・紡績などの軽工業を中心に産業革命が進み、資本主義が確立したことや、20世紀に入って重工業も発達したことを理解している。	工業化や交通機関の発達は、都市や農村の生活に大きな変化をもたらし、人々の生活範囲も広がったことを指摘している。
㉒工業化のかげで I	○急速な工業化の一方で、厳しい労働条件の改善を求める労働運動や、社会主義運動が起こり、政府は治安警察法によりこれらを取り締まったことを理解する。 ○足尾鉍毒事件の原因や被害の様子、田中正造らの運動、政府の対策などをとらえ、深刻な公害問題となった理由について考える。	急速な工業化の一方で、厳しい労働条件の改善を求める労働運動や、社会主義運動が起こり、政府は治安警察法によりこれらを取り締まったことを理解している。	足尾鉍毒事件の原因や被害の様子、田中正造らの運動、政府の対策などをとらえ、深刻な公害問題となった理由について考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
②西洋文化と伝統文化 1	○教育制度の整備により就学率が高まり、高等教育や女子教育も盛んになった一方で、国定教科書などを通じて教育内容の統一が強まっていったことに気づく。 ○明治時代には、西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成され、世界で最先端の研究や発見も生まれたことを理解する。	明治時代には、西洋文化の影響を受けた新しい近代文化が形成され、世界で最先端の研究や発見も生まれたことを理解している。	教育制度の整備により就学率が高まり、高等教育や女子教育も盛んになった一方で、国定教科書などを通じて教育内容の統一が強まっていったことを説明している。
□人口の変化と海外への移民 (1)	○日本の人口の移り変わりに関心を持ち、日本の歴史の流れとの関わりについて考える。 ○明治時代に多くの日本人が海外へ移住したことに関心を持ち、その背景や現地での暮らしの様子について、ハワイやブラジルの歴史とともに理解を深める。	明治時代に多くの日本人が海外へ移住したことに関心を持ち、その背景や現地での暮らしの様子について、ハワイやブラジルの歴史とともに理解している。	日本の人口の移り変わりに関心を持ち、日本の歴史の流れと人口の変化を関連づけて考察し、表現している。

★学習のまとめと表現 2	○近代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○近代から「大戦期」へ時代がどのように変化していったのか、戦争の戦い方の違いに着目して関心をもつ。	近代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色を理解している。	近代から「大戦期」へ時代がどのように変化していったのか、戦争の戦い方の違いに着目して推測している。
-----------------	------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--------------------------------------------------------	---------------------------------------------------

第6章 二度の世界大戦と日本

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～大正・昭和初期の暮らしと社会～	○資料「昭和初期の百貨店」「劇場や映画館が並ぶ大正時代の浅草」などの読み解きを通して、大戦期の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 大戦期の社会の様子について、写真などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 写真などの資料から、大戦期の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 写真などの資料の読み取りを通して、大戦期の学習の見通しを立てている。

●1節 第一次世界大戦と民族独立の動き  
5

『第一次世界大戦は、世界や日本にどのような影響を与えたのだろうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて理解する。 ○第一次世界大戦前後の国際情勢や、大戦後に国際平和への努力がなされたことを、日本の動きと関わらせて理解する。	①知識・技能 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、第一次世界大戦前後の国際情勢及び日本の動きと、大戦後に国際平和への努力がなされたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、第一次世界大戦による世界と日本の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 第一次世界大戦の背景とその影響、民族運動の高まりと国際協調の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①クリスマスまでには帰れるさ I	○第一次世界大戦は、植民地や勢力圏をめぐるヨーロッパの列強諸国間の対立や、民族問題を背景として起こったことを理解する。 ○第一次世界大戦が、史上初の世界的な規模の戦争で、新兵器も登場して総力戦となったことに気づくとともに、参戦国や国民生活にもたらした影響について考える。	写真などの資料から、三国同盟と三国協商、バルカン半島の情勢、第一次世界大戦の始まり、総力戦の様子について読み取り、第一次世界大戦のあらましについて理解している。	第一次世界大戦を引き起こした要因や総力戦の内容について多面的・多角的に考察し、参戦国や国民生活にもたらした影響を説明している。
②成金の出現 I	○日本は、勢力拡大を目的に第一次世界大戦に参戦し、中国に対して二十一か条の要求を認めさせたことを理解する。 ○大戦景気によって日本の経済が急成長し、事業を拡大した大企業が、財閥として経済界を支配するようになったことに気づく。	日本が第一次世界大戦に参戦した目的について、中国への二十一か条の要求などの対外政策と関わらせて理解している。	第一次世界大戦中の日本の動きをとらえ、大戦によって国際社会における日本の勢力が拡大したことや日本の経済が急成長したことについて考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
③パンと平和、民主主義を求めて I	○ロシア革命が起こった経緯や、ソビエト政府の社会主義政策についてとらえ、連合側がソビエト政府に対する干渉戦争を始めたことを理解する。 ○アメリカの参戦や、ソビエト政府の講和原則とアメリカが示した平和原則が、第一次世界大戦と戦後の世界に与えた影響について考える。	「第一次世界大戦の経過」の年表から、第一次世界大戦中にロシア革命が起こったことを読み取り、その経緯や連合側が干渉政策を始めたことを理解している。	アメリカの参戦や、ソビエト政府の講和原則とアメリカが示した平和原則が第一次世界大戦と戦後の世界に与えた影響について考察し、表現している。
④不戦の誓い I	○第一次世界大戦の終結と講和の内容についてとらえ、ヨーロッパでは多くの国が独立したにもかかわらず、アジアやアフリカで民族自決が認められなかった理由を考える。 ○大戦後には国際連盟が設立され、軍縮の動きや国際協調の気運が高まるとともに、民主主義も国際的に広がったことを理解する。	「第一次世界大戦後のヨーロッパ」の地図、「紙幣の束で遊ぶ子どもたち」の写真などの資料から第一次世界大戦後の世界の動きを読み取り、国際連盟の設立、軍縮や国際協調の気運の高まり、国際的な民主主義の広まりについて理解している。	第一次世界大戦後にヨーロッパで多くの国が独立したことをとらえ、一方でアジアやアフリカで民族自決が認められなかったことについて考察し、表現している。
⑤わきあがる独立の声 I	○第一次世界大戦後、朝鮮・中国・インドで独立などを求める民族運動があい次いで起こったことや、日本は朝鮮の三・一独立運動を武力でおさえつけたことを理解する。 ○アジアでの民族運動の高まりの背景には、民族自決の理念の広まりがあったことについて考える。	様々な資料から、朝鮮・中国・インドの独立などを求める民族運動の様子を読み取り、第一次世界大戦後の世界の動きとアジアの民族運動を関連づけて理解している。	アジアの民族運動を第一次世界大戦後の世界の動きと結びつけながら考察し、大戦後に目ざされた民族自決の考え方やアジアの実態の矛盾点について説明している。

●2節 大正デモクラシー  
3

『第一次世界大戦の前後、日本の政治・社会・文化には、どのような変化があったのでしょうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○政党政治の確立や民主主義思想の普及、社会運動の高まりについてとらえ、大正時代に国民の政治的自覚が高まったことを理解する。 ○都市化やメディアの発達などを背景に、文化の大衆化が進んだことを理解する。	①知識・技能 日本の国民の政治的自覚の高まりと文化の大衆化などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、政党政治の展開や、社会運動の広まり、女性の社会的進出、大都市の発達や人々の生活様式や意識の変化を理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、戦争による世界と日本の社会の変化や影響について多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 第一次世界大戦前後の日本の政治・社会・文化における変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑥憲政の本義を説いて I	○米騒動が起こった背景について、第一次世界大戦やシベリア出兵との関連をふまえて考える。 ○日本で本格的な政党内閣が成立したことについて、民本主義の提唱など民主主義の広まりからとらえ、理解する。	護憲運動や民本主義の提唱など民主主義が広まるなかで、本格的な政党内閣が成立したことを理解している。	米騒動が起こった背景について、第一次世界大戦やシベリア出兵の影響をとらえ、考察し、表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑦デモクラシーのうねり I	○第一次世界大戦後の経済不況を背景に、労働者や農民による争議、差別からの解放を求める運動などの社会運動が高まったことを理解する。 ○政党内閣のもとで普通選挙法が成立し、協調外交が進められた一方で、治安維持法が制定されたことの意味を考える。	「労働争議と小作争議の発生件数」のグラフや、「『青鞥』の宣言」・「水平社宣言」の資料から、労働運動、女性解放運動、部落差別解放運動の様子を読み取り、大正時代における社会の民主化の進展を、当時の政治・経済の動きと関連づけて理解している。	政党内閣のもとで普通選挙法が成立し、治安維持法が制定されたことの意義について、多面的・多角的に考察し、表現している。
⑧モボ・モガの登場 I	○大正時代には、都市人口の急増により大都市が発達し、生活の西洋化が進むとともに、サラリーマンや職業に就く女性も増えたことを理解する。 ○大正時代の文化について、国民の教育水準が上がるなかで、新聞や雑誌、ラジオ放送などのメディアが発達し、文化の大衆化が進んだことに気づく。	様々な資料から大都市の様子や人々の生活の様子を読み取り、都市化の進展や生活の西洋化が進んだことを理解している。	大正時代の文化の特色について、新聞・雑誌・ラジオなどのメディアが発達し文化が大衆化したことを、教育水準の向上と関連づけて考察し、表現している。
●大正・昭和初期の面影を訪ねて (1)	○身近な地域に残る大正・昭和初期の建物や町並みについて、様々な視点や方法で調べる活動を通して、地域の歴史への関心を広げ、その学び方を身に付ける。 ○建物や町並み、写真などから、大正・昭和初期に広まった文化には、現在につながるものが多くあることに気づく。	地図や観光パンフレットなどの資料から、大正・昭和初期の建物について調べ、写真や地図等を使いながらまとめている。	大正・昭和初期の建物と周囲の建物とを比較して、デザインや構造などの類似点について指摘し、大正・昭和初期に広まった文化が現在につながる理由を考察し、表現している。

●3節 恐慌から戦争へ  
5

『世界的な経済の変化は、各国の政治や国際関係にどのような影響を与えたのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○経済の世界的な混乱が発生した原因や、各国への影響について考える。 ○昭和初期から第二次世界大戦の開戦までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民生活についてとらえ、軍部の台頭から戦争までの経過を理解する。	①知識・技能 経済の世界的な混乱と社会問題の発生、昭和初期の日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、軍部の台頭から戦争までの経過について理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 経済の変化と政治への影響、戦争に向かう時期の社会や生活の変化、世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、二度目の世界大戦に向かっていった理由について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 経済の世界的な混乱と各国への影響について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

<各時間の評価規準>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑨独裁者の出現 I	○世界恐慌が起こった経緯をとらえ、その対策としてアメリカが行ったニューディール政策や、イギリス・フランスが行ったブロック経済の特徴について理解する。 ○ドイツやイタリアでファシズムが台頭した経緯をとらえ、多くの国民が独裁者を支持した理由について考える。	世界恐慌後の各国の動き(ニューディール政策、ブロック経済、ファシズム)をまとめ、世界恐慌とそれに対する各国の対策が、国際社会を大きく変化させたことを理解している。	世界恐慌が世界の経済・政治に与えた影響を考察し、国際協調が崩れていった理由について表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑩日本を襲う不景気 I	○日本では、関東大震災による打撃や世界恐慌の影響を受けて経済が混乱し、生活が逼迫した国民の間には、政党政治に対する不満と不信が広まったことに気づく。 ○政党内閣の進める協調外交がしだいに行き詰まったことを、国民政府軍による中国統一の動きと関わらせて理解する。	写真とグラフから、日本の経済や社会の様子を読み取り、世界恐慌下の日本の政治・経済・社会の混乱について理解している。	世界恐慌が日本の経済・政治に与えた影響を考察し、日本の社会の混乱を、国民の間に広まった政党政治に対する不満や不信と関連づけながら表現している。
⑪満州は日本の生命線 I	○満州事変が起こった経緯をとらえ、日本がつくらせた満州国は、事実上の植民地であったこと、五・一五事件を契機に政党政治が終わったことに気づく。 ○満州事変を支持する国内の世論を背景に、日本は国際連盟を脱退し、軍縮も破棄して国際社会から孤立していったことを理解する。	「溥儀の『満州国』執政就任式」・「満州での開拓の様子」の写真や、資料「『満州国』の建国ポスター」や本文から、日本が満州事変を起こした目的や日本の主張、国際社会の反応の差を読み取り、満州事変が日本を戦争に向かわせるきっかけとなったことを理解している。	満州事変が日本や国際社会に与えた影響を考察し、日本と国際社会の関係の変化について具体的に表現している。
⑫軍部の台頭 I	○二・二六事件を経て、政党政治に代わる軍国主義の動きが高まり、軍部が政治への発言力を強めていったことについて考える。 ○満州と華北をめぐる対立から、日本は中国と戦争を始めたことや、抗日民族統一戦線の結成など中国の抵抗により、戦争が長期化していったことを理解する。	様々な資料から、軍部の台頭とそれに伴う政党政治の終わり、日中戦争への歩みについて読み取り、日中戦争の始まりを、軍国主義という政治体制の確立・拡大と関連づけながら理解している。	二・二六事件が起こった背景を考察し、政党政治に代わって軍国主義の動きが強まっていったことについて説明している。
⑬ぜいたくは敵だ I	○国家総動員法の制定や、大政翼賛会・隣組などの組織が、戦争遂行のために果たした役割について考える。 ○政府は、メディアや教育、生活物資などを通じて国民生活を厳しく統制したことや、植民地の人々に対しても、日本人に同化させる皇民化政策を強めたことを理解する。	戦時下の日本の様々な写真から、当時の厳しく、苦しい生活を読み取り、戦争遂行のために、国が国民生活を厳しく統制したことを理解している。	日中戦争の長期化と、国家総動員法や戦時体制の強化を関連づけて考察し、当時の国民と政治との関係について説明している。
□後藤新平と杉原千畝 (1)	○後藤新平の行動や生き方を例に、地域社会に生きるこの意味について考えるとともに、関東大震災からの復興について理解を深める。 ○杉原千畝の行動や生き方について、大戦期の時代背景との関わりのなかで関心をもつとともに、国際社会に生きるこの意味について考えを深める。	後藤新平が関東大震災からの復興に果たした役割や、杉原千畝が第二次世界大戦中に行った人道的な支援について、時代背景と関わらせて理解している。	後藤新平や杉原千畝の行動や生き方を比較して、その類似点を指摘し、二人に対する評価の変化について考察し、表現している。

●4節 第二次世界大戦と日本の敗戦  
4

『第二次世界大戦は、世界や国民生活にどのような影響をおよぼしたのでしょうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○第二次世界大戦の開戦から終結までの各国や日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、戦時下の国民生活についてとらえ、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解する。</p> <p>○第二次世界大戦が及ぼした惨禍をふまえ、国際協調と国際平和の実現に努めることが大切であることに気づく。</p>	<p>①知識・技能 第二次世界大戦の終結までの日本の政治・外交の動き、中国などアジア諸国との関係、欧米諸国の動き、戦時下の国民の生活などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報を調べまとめ、戦争の経過と、大戦が人類全体に惨禍を及ぼしたことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 世界の動きと日本との関連などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、二度目の世界大戦が起こった理由やその戦争の影響を世界的な視野で、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 第二次世界大戦の開戦から終結までの各国や日本の動き、そして、この大戦が及ぼした惨禍について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>⑭枢軸国と連合国の戦い I</p>	<p>○第二次世界大戦の開戦の経緯をとらえ、ドイツがイタリア・日本と結びつきを強めたことや、占領地でユダヤ人虐殺などの過酷な支配をしたことを理解する。</p> <p>○民主主義を守ろうとする国々が、大西洋憲章のもとに連合国としてまとまったことに気づき、大西洋憲章の意義について考える。</p>	<p>枢軸国と連合国の対立と戦争拡大の様子を地図から読み取り、ドイツの動きが第二次世界大戦を引き起こすきっかけになったことを理解している。</p>	<p>第二次世界大戦の開戦の経緯を考察し、ドイツがイタリア・日本と結びつきを強めて枢軸を形成したこと、民主主義を守ろうとする国々が連合国としてまとまったことについて表現している。</p>
<p>⑮米・英への宣戦布告 I</p>	<p>○日中戦争が長期化するなか、日本は軍需物資を求めて東南アジアに侵攻し、アメリカとの対立から太平洋戦争を始めたことを理解する。</p> <p>○「大東亜共栄圏」を提唱した日本の占領政策についてとらえ、植民地からの解放を期待したアジアの人々がどのように受け止めたのかを考える。</p>	<p>「日本の資源の輸入先の割合」のグラフから、アメリカとの関係悪化が日本の戦争遂行に大きな影響を与えたことを読み取り、太平洋戦争開戦にいたる経緯を、日中戦争の遂行状況、ヨーロッパでの戦争の状況、日米関係と関連づけながら理解している。</p>	<p>当時の日本の動きを日中戦争の遂行状況、ヨーロッパでの戦争の状況、日米関係と関連づけながら日本の占領政策について考察し、日本が太平洋戦争を決断した理由について表現している。</p>
<p>⑯欲しがりません 勝つまでは I</p>	<p>○戦争が総力戦となるなか、学生を含む多くの国民や植民地・占領地の人々が、兵力や労働力として動員・連行されたことについて、人々への影響を考える。</p> <p>○戦況が悪化するなか、国民生活は窮乏し、日本への空襲が繰り返されるようになって、国内でも大きな犠牲が生じたことを理解する。</p>	<p>戦時下の窮乏する国民生活の様子を様々な写真から読み取り、戦況の悪化やそれに伴う被害の拡大と関連づけて理解している。</p>	<p>勤労働員や学徒出陣、国外からの動員について、戦況の悪化や人々への影響と関わらせて考察し、表現している。</p>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑰軍国主義の敗北 1	○イタリア・ドイツの降伏に続いて、日本も沖縄戦や広島・長崎への原爆投下、ソ連の参戦などを経て降伏し、第二次世界大戦が終結したことを理解する。 ○終戦後も残留孤児やシベリア抑留などの戦争の傷跡が残されたことをとらえ、戦争が国内外で多大な惨禍をもたらしたことを考える。	沖縄戦や原爆投下の写真から、戦争がもたらした惨禍について読み取り、そうした惨禍と関連づけながら、第二次世界大戦の終結を理解している。	残留孤児やシベリア抑留などの戦争後も残された戦争の傷跡から、第二次世界大戦がもたらした惨禍を考察し、表現している。
□戦争の記憶をつなぐ人たち (1)	○過去に行われた戦争の記憶を未来に残すための取り組みについて、活動やその意義を、沖縄や広島などの事例から理解する。 ○戦争の記録を伝える取り組みに関する国内外の事例から、国際的な協力や平和を守る努力が行われていることについて考える。	戦争の記憶を未来につなぐ取り組みについて、資料などをもとにして、そうした取り組みが行われる意義や具体的な取り組みの内容などについて理解している。	戦争の記憶を継承する取り組みへの関心をもち、それぞれのようなことを伝えようとしているのかを考察し、その内容を表現している。
★学習のまとめと表現 2	○「大戦期」の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現して、時代の特色をとらえる。 ○「大戦期」から現代へ時代がどのように変化していったのか、子どもたちの生活の違いに着目して関心をもち。	「大戦期」の年表を作ったり、「大戦期」の舞台となった場所を地図にまとめたりして、「大戦期」の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解している。	「大戦期」のできごとや動きについて考察し、「大戦期」がどのような時代だったかをその理由と共に表現している。

## 第7章 現代の日本と世界

学習項目	学習のねらい	評価規準
学習を始めよう ～現代の暮らしと社会～	○資料「東京都銀座(1945・1950・1967・2018年)」などの読み解きを通して、現代の日本について、社会の様子を予想し、学習の見通しを立てる。	①知識・技能 現代の社会の様子について、写真などの資料から読み取る技能を身につけている。 ②社会的な思考・判断・表現 写真などの資料から、現代の社会の様子について読み取り、その変化について予想を立て、考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 写真などの資料の読み取りを通して、現代の学習の見通しを立てている。

### ●1節 日本の民主化と冷戦 4

『戦後の日本は、どのような国を目指し、国際社会に復帰したのだろうか。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○第二次世界大戦後、国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について理解する。 ○冷戦の始まりや朝鮮戦争などの世界の動きのなかで、新しい日本の建設が進められたことを理解する。	①知識・技能 冷戦、日本の民主化と再建の過程、国際社会への復帰などを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、第二次世界大戦後の諸改革の特色や世界の動きの中で新しい日本の建設が進められたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 戦後の展開と国際社会の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、諸改革が日本の社会に及ぼした変化や冷戦体制下の日本と世界との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 国際社会に復帰するまでの日本の民主化と再建の過程について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①敗戦からの再出発 	○連合国軍による日本占領や民主化政策についてとらえ、その方針がポツダム宣言に基づいていることに気づく。 ○敗戦後の苦しい国民生活のなかで、人々の間には統制からの解放感が広がり、戦争の焼け跡からしだいに復興していったことを理解する。	写真や本文から、人々の間に統制からの解放感が広がったことを読み取り、連合国軍による民主化政策について理解している。	連合国軍による民主化政策について、その方針とポツダム宣言の内容とを関連づけて考察し、表現している。
②平和国家を目標として 	○日本国憲法の制定過程や三原則についてとらえ、憲法制定により民主主義国家としての根幹が定まったことを理解する。 ○民法の改正、教育基本法の制定、財閥解体、農地改革などの改革のねらいや影響について理解し、戦前の制度と比べて、その特色を考える。	「あたらしい憲法のはなし」のさし絵や改革に関する資料から、戦後の改革が何を目標としていたかを読み取り、日本国憲法の三原則、戦後の改革のねらいや影響について理解している。	日本国憲法や戦後の改革(教育や経済)について、戦前のものと比較して考察し、その特色から民主主義国家としての根幹が定まったことを説明している。
③冷たい戦争の始まり 	○大戦の反省から新たに国際連合が発足した一方で、米ソの対立から東西陣営の冷戦が生じたことをとらえ、ドイツや朝鮮が二つに分断され、その後朝鮮戦争が始まることを考える。 ○大戦後、中国で中華人民共和国が成立し、アジア・アフリカでは植民地の独立があい次いだことを理解する。	大戦後、中国で中華人民共和国が成立したことや、アジア・アフリカで植民地の独立があい次ぎ、第三世界を形成したことについて理解している。	国際連合が発足した一方で、ドイツや朝鮮が二つに分断され、その後朝鮮戦争が始まったことについて、東西陣営による冷戦と関連づけて考察し、表現している。
④独立の回復 	○冷戦の緊張が高まるなか、日本に対するGHQの占領政策が大きく転換したこと、朝鮮戦争が日本に特需景気をもたらしたことを理解する。 ○日本が独立を回復し、国際社会に復帰したことをとらえ、その一方でどのような課題が残されたか、講和の経緯をふまえて考える。	日本に対するGHQの占領政策が転換したことや、朝鮮戦争が日本に特需景気をもたらしたことについて、冷戦の緊張の高まりと関連づけて理解している。	日本が独立を回復し、国際社会に復帰した一方で、ソ連との北方領土問題など、様々な課題が残されたことについて考察し、表現している。

節の学習のねらい	節の評価規準
<p>○ベトナム戦争や中東戦争などの世界の動きを背景に、日本の高度経済成長が石油危機により終焉するまでの過程について、安保改定・沖縄返還・日中国交正常化などの国際社会との関わりをなかで理解する。</p> <p>○日本の経済や科学技術が急速に発展して国民の生活が向上したことを理解する。</p>	<p>①知識・技能 高度経済成長、国際社会との関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。</p> <p>②社会的な思考・判断・表現 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、国民生活への影響と国際平和の実現への努力などについて多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③主体的に学習に取り組む態度 冷戦下の国際社会の中における日本の変化について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。</p>

<各時間の評価規準>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
<p>⑤自主・独立・平和を求めて I</p>	<p>○ベトナム戦争の経緯や日本との関わりについてとらえ、ベトナム反戦運動の世界的な高まりに気づく。</p> <p>○経済の統合や民主化など、東・西ヨーロッパで米ソに対抗する動きが起こったことや、中東の紛争を背景に、アラブ諸国の石油戦略が先進国に影響を与えたことを理解する。</p>	<p>ベトナムやチェコ、パレスチナでの報道写真から、自主・独立・平和を求める人々の願いを読み取り、東・西ヨーロッパで経済の統合や民主化などの動きが起こったことや、アラブ諸国の石油戦略が先進工業国に大きな影響を与えたことを、その背景とともに理解している。</p>	<p>ベトナム戦争が起こった背景や、その後の推移について考察し、反戦運動が高まった理由を、そのころの世界の動きとも関連づけて表現している。</p>
<p>⑥国際関係の変化 I</p>	<p>○安保条約改定の内容や経過をとらえ、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由について考える。</p> <p>○日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯についてとらえるとともに、今日まで残された課題があることに気づく。</p>	<p>日本と韓国・中国との国交正常化や、沖縄の本土復帰の経緯についてとらえ、その後も課題が残されたことを理解している。</p>	<p>日米安全保障条約の改定の内容や経過をとらえ、国民の間に大規模な反対運動が起こった理由について考察し、表現している。</p>
<p>□隣国と向き合うために (1)</p>	<p>○日本の領土(北方領土・竹島・尖閣諸島)について、その領有の経緯や歴史的背景を理解する。</p> <p>○近隣諸国との間で、日本の領土をめぐる課題が残されており、そのことについて各国の見解が異なることに気づく。</p>	<p>写真や本文から、日本の領土(北方領土・竹島・尖閣諸島)に関して、領有の経緯やロシア・韓国・中国との歴史的背景を読み取り、周辺国との間で領土をめぐる課題が残されていることを理解している。</p>	<p>領土をめぐる課題とその背景について考察し、東アジアの国や地域の発展に伴い、どのように解決していくことが考えられるかについて表現している。</p>
<p>⑦高度経済成長の光とかげ I</p>	<p>○1960年代の高度経済成長により、国民生活は豊かになった一方で、過疎・過密などの社会問題や深刻な公害問題が生じたことを理解し、その原因について考える。</p> <p>○石油危機の打撃を受けた日本が、産業構造を転換させたことや、その後の輸出超過により各国と貿易摩擦が起こったことを理解する。</p>	<p>高度経済成長がもたらした光の面とかげの面について、資料や本文から読み取り、高度経済成長による国民生活の変化や、石油危機の影響について理解している。</p>	<p>高度経済成長期に、過疎・過密などの社会問題や、深刻な公害問題が生じた原因について考察し、1960年代の高度経済成長が日本にもたらしたものについて表現している。</p>

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑧わが家にテレビがやってきた I	○戦後から高度経済成長期におけるマスメディアの発達の人々の生活にどのような影響を与えたか考える。 ○経済成長やマスメディアの発達を背景に、文化の大衆化がさらに進展したことを理解する。	戦後から高度成長期にかけての人々の生活や文化の変化について資料や本文から読み取り、文化の大衆化がさらに進展したことについて理解している。	マスメディアの発達と文化の大衆化の進展を関連づけて考察し、マスメディアが人々の生活や文化に与えた影響について表現している。
●移り変わる戦後の街を訪ねて (1)	○戦後の身近な地域や人々の暮らしの変化について様々な視点や方法で調べ、まとめる活動を通して、地域の発展を願う人々の営みに関心を広げ、学び方を身に付ける。 ○地形図やグラフから、土地利用の変化や、人口や産業の移り変わりを読み取り、地域の変化について理解する。	戦後の身近な地域の変化の状況について、地図などの資料を活用したり、野外調査をしたりしながら調べ、発表をまとめている。	戦後の身近な地域の変化の背景にある、その地域の復興や発展を願う人々の営みについて考察し、ポスターなどにまとめて表現している。

●3節 冷戦の終結とこれからの日本  
4

『冷戦後、変化する国際社会の中で、日本ではどのような動きがあったのだろう。』

節の学習のねらい	節の評価規準
○冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについてとらえ、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解する。 ○環境・人権・平和などをめぐる様々な課題が残されていることに気づき、これからの未来をひらくためにどのように社会と関わればよいのか考える。	①知識・技能 冷戦の終結、国際社会との関わりなどを基に、諸資料から歴史に関する様々な情報について調べてまとめ、日本の経済や科学技術の発展によって国民の生活が向上し、国際社会において日本の役割が大きくなってきたことを理解している。 ②社会的な思考・判断・表現 政治の展開と国民生活の変化などに着目して、事象を相互に関連付けるなどして、国民生活への影響と国際平和の実現への努力などについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③主体的に学習に取り組む態度 冷戦終結後の変動する世界と日本の動きについて、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究しようとしている。

〈各時間の評価規準〉

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
⑨民主化のうねりと国際社会の変化 I	○東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことを理解し、地域紛争やテロ事件が今もなお続くなかで、日本が果たすべき国際的役割について考える。 ○政治・経済の統合を旨とするヨーロッパ連合の動きについてとらえ、こうした動きは世界に広まりつつあることを理解する。	写真や地図から冷戦終結後の世界の変化を読み取り、東西ドイツの統一やソ連の崩壊により冷戦が終結したことや、ヨーロッパで政治・経済の統合が進んでいることを理解している。	冷戦終結後の世界の様子をとりえ、地域紛争・テロ事件が続くなかで日本が果たすべき国際的役割について考察し、表現している。
⑩泡のようにふくらむ経済 I	○バブル経済の経緯と、その崩壊で日本経済が長い不況に入ったことを理解するとともに、新たな政治のあり方が模索されていることに気づく。 ○冷戦後のアジア各国の動きや成長についてとらえ、日本が果たすべき役割について考える。	バブル経済の経緯とその崩壊について、資料や本文から読み取り、日本経済が長い不況に入ったことについて理解している。	冷戦後のアジア各国の動きや成長について考察し、バブル経済とその崩壊を経験した日本が果たすべき役割について表現している。

学習項目	学習のねらい	①知識・技能	②思考・判断・表現
①私たちの生きる時代へ 1	○阪神・淡路大震災や東日本大震災などの自然災害や地下鉄サリン事件などが、社会に及ぼした影響について考える。 ○パソコンや携帯電話・スマートフォンなどの機器の発達や、インターネットの普及により、人々の生活や文化が変化してきていることに気づく。	近年の日本で起こった自然災害について資料や本文から読み取り、日本は自然災害が繰り返し起きていることや地域の復興や今後の災害対策が求められていることを理解している。	情報機器の発達や、インターネットの普及により、人々の生活や文化が変化してきていることに気づくとともに、現代社会の特色を考察し、表現している。
②未来をひらくために 1	○グローバル化・情報化・少子高齢化の動きをとらえ、自分たちの生活に様々な影響を及ぼしていることに気づき、公民的分野の学習への課題意識をもつ。 ○環境や人権を守り、豊かで平和な国や世界を築いていくことの重要性を理解するとともに、自分たち一人一人が果たすべき役割について考える。	昨今の新聞記事を収集・活用し、グローバル化・情報化・少子高齢化の動きや、環境・人権・平和をめぐる課題について理解している。	環境・人権・平和をめぐる様々な課題に対し、世界の中の市民の一人として果たすべき役割について考察し、表現している。
□平和と共生を願う人々 (1)	○反戦や国際協調への事例を通して、平和への人々の願いについて理解を深める。 ○核兵器のない平和な世界の実現に向け、自分たちが取り組むべき行動について考えを深める。	「第五福竜丸展示館」「原爆の子の像」「平和首長会議」「オリンピックとパラリンピックの始まり」から人々の平和への願いについて読み取り、核兵器のない、平和な世界を実現させようとする動きやその経緯について理解している。	日本の平和は、どのような努力によって引き継がれているのかについて考察し、核兵器のない平和な世界の実現に向けて、取り組むべき行動について表現している。
★学習のまとめと表現 2	○現代の時代の移り変わりを振り返り、どのような時代であったかを言葉や作品に表現するとともに、「大戦期」からの時代の変化をとらえ、時代の特色とこれからの時代について考える。	年表を作ったり、現代の舞台となった場所を地図にまとめたりして、現代の時代の移り変わりや、人物と事柄の関わりについて理解している。	現代のできごとや動きについて考察し、現代がどのような時代だったかを理由と共に表現している。
≪歴史学習の終わりに≫ 2	○過去の自然災害を理解し、防災・減災や復興など現代の社会的課題をとらえ、これからの安全な社会の創造について考えを深める。 ○現代の諸課題について、その起源や来歴など歴史的な見方・考え方を働かせて構想することの意義に気づく。	これまでの歴史や地理の学習をふまえ、現代社会には、身近な地域の規模・国の規模・世界の規模で、様々な課題が残されていることについて理解している。	「SDGsの17の目標」やその考え方を参考にして、現代社会の課題を一つ選んで考察・構想し、よりよい未来を開くために考えられることをレポートにまとめ、表現している。